

## 休日の大人のための漆靴

A2201417 酒井和希

### 概要

現代の新たな漆製品の需要について考えた場合、一つのターゲットとして戦後ベビーブームに生まれ、日本の社会形成のため尽力し、会社勤めを終え、それぞれが第二の人生を謳歌している世代への提案が挙げられる。

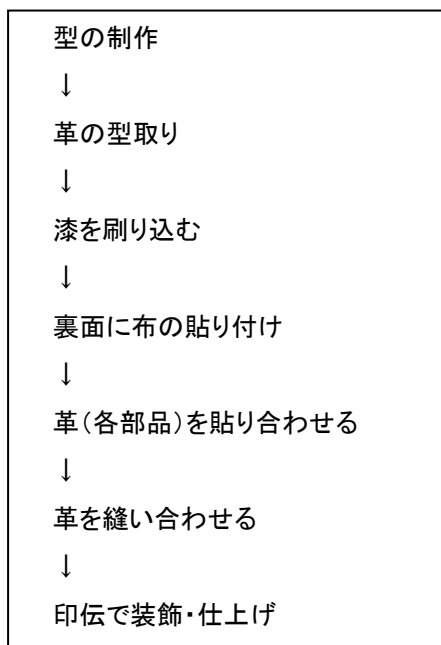
この世代の人々を調べると、彼らは趣味でよく旅行をするという統計があり、中でも国内旅行→温泉・観光旅行の傾向がよくみられる。温泉・観光旅行に出かける場合、宿泊時にホテルや旅館に荷物を置き、外へ出て散策やお土産買い、外食をする人も多い。財布や携帯電話は常に持ち歩く必須アイテムであるが、その度に靴を持ち歩くのは面倒ということ、最低限の持ち物であれば良いのではないかという点から、小さな靴やウエストバッグを活用する形も多くみられる。

しかし、同世代の特徴でもある持ち物へのこだわりと、同様の旅をする同世代へのアピールも考えたとき、浴衣に着替えた際にも存在感を発揮する漆の靴に新たな漆製品の可能性があるのではないかと考え、その発想を基に研究制作を試みる。

### 研究の目的

漆皮と印伝の技法を活用し、装着性や安全性などを含め、デザインをする。

### 研究の過程



型をつくり、革を型にはめ込み形成する。



裏に布を貼る



背面を貼り合わせる



淵に切り込みを入れる



違う素材でふたを縫い付ける



横から



前から



(試作品の段階のものを使用)

## 考察

この制作で、革という今までに経験したことのない材料を使用することにした際に、どう扱ったら良いか分からずどのようにしたら形になるのかという所から悩み、結果 漆皮の技法や、型枠を使用し、なんとか形にすることができた。

実際の使用を考慮した際、ふたの開け閉めの方法や、切込みの形状と強度との関係に対するデザインの検討も重要なプロセスであると思われる。しかし、この機会に革と漆を使用することで、様々な発見や今までとは違ったことができたのは、貴重な経験になった。

今後、新たな漆製品開発の可能性として、今回の研究が役立つ機会があればとおもう。